

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合における全国瞬時警報システム（Jアラート）による情報伝達に関するQ&A

問1 北朝鮮の弾道ミサイル発射の現状はどうなっているのでしょうか。

- 北朝鮮は本年2月7日には「人工衛星」と称する弾道ミサイルを発射したほか、3月以降も弾道ミサイルの発射を繰り返し、8月には初めて弾道ミサイルの弾頭部分が日本の排他的経済水域（EEZ）内に落下したほか、9月にはほぼ同時に発射された3発の弾道ミサイルの弾頭部分がいずれも日本のEEZ内に落下しています。
- 政府としては、いかなる事態にも対応することができるよう緊張感をもって必要な対応に万全を期しているところです。

問2 実際、どのように情報伝達が行われるのでしょうか。

- 政府からJアラートにより情報伝達があった場合は、市町村の防災行政無線等が自動的に起動し、屋外スピーカー等から警報が流れるほか、携帯電話にエリアメール・緊急速報メールが配信されます。
詳しくは消防庁のホームページをご確認下さい。

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList2_1.html

問3 これまでJアラートにより弾道ミサイルに関する情報伝達を行った実績を教えてください。

- 北朝鮮が「人工衛星」と称する弾道ミサイルを発射した平成28年2月7日及び平成24年12月12日に、それぞれ「発射情報」と「通過情報」をJアラートにより伝達しました。

問4 「ミサイルが発射された」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

- 弾道ミサイル発射の情報を伝達した後に続報を伝達します。落ち着いて続報に備えてください。
- なお、ミサイルが日本の領土・領海に落下する可能性があるとは判断した場合には、その時点で改めて、屋内への避難を呼びかけます。

問5 ミサイルは発射から何分位で日本に飛んでくるのでしょうか。

- 北朝鮮から弾道ミサイルが発射され、日本に飛来する場合、極めて短時間で日本に飛来することが予想されます。
- 例えば、本年2月7日に北朝鮮西岸の東倉里（トンチャンリ）付近から発射された弾道ミサイルは、約10分後に、発射場所から約1,600km離れた沖縄県先島諸島上空を通過しています。
- なお、弾道ミサイルの種類や発射の方法、発射場所等により日本へ飛来するまでの時間は異なります。

問6 「ミサイルが落下する可能性がある」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

- 屋外にいる場合には、直ちに近くの建物等に避難してください。（建物の中にいる場合は、政府からの情報について、テレビやラジオで確認してください。）

問7 どのような建物等に避難すれば良いのでしょうか。

- 近くのできる限り頑丈な建物や地下街などに避難してください。

問8 「ミサイルが●●地方に落下した可能性がある」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

- 周囲に異常がないかを確認してから、行動してください。政府からの情報について、テレビやラジオで確認してください。
- もし、不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、すぐに警察や消防などに連絡してください。

問9 「ミサイルがこの地域を通過した」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

- 政府からの情報について、テレビやラジオで確認してください。
- もし、不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、すぐに警察や消防などに連絡してください。

問10 「ミサイルが●●海に落下した」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

- 政府からの情報について、テレビやラジオで確認してください。
- もし、不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、すぐに警察や消防などに連絡してください。